

旧約聖書におけるジュビレ(聖年)

聖書には、神が平和と調和の世界を創造されたと書かれています。創造の頂点は安息日であり、休息と神との交わりの経験です。

しかし、聖書は、この調和と平和が長続きしなかったことも語っています。人間は全てを台無しにしてしまいました。

創世記の数ページ先には、墮落と楽園からの追放、カインが弟アベルを殺したことなどが記されており、同様に、神ご自身が人間を創造したことを後悔しているほどです。神は洪水を起こし、ノア以外のすべてを絶やします。物語はバベル、エジプトへ...と続きます。

バベルの後、神はアブラハム彼の子孫と働き、全人類を祝福することを約束しました。しかし、わずか数世紀も経たぬ間に、アブラハムの子孫はエジプトで苦しむことになります。

そして、モーセが神に選ばれ、エジプトから導き出し、イスラエルの特権を回復すると、彼らは偶像崇拝をするようになります。

つまり、聖書の歴史と全人類の歴史は、この人類の悲劇に照らして見ることができます。一方では、私たちは神とその創造の計画を拒絶し、他方では、神は聖書の歴史全体と私たちの個人的な物語を用いて、私たちが作り出した混乱から、神が意図されたとおりに物事の秩序を再構築されます。

だから、私たちはジュビレの年を祝うのです。

なぜか。父なる神が物事を回復させるために用意された救済措置のひとつは、7 日目という安息日だけではないのです。7 年ごとに安息年が宣言され、7 年を 7 回、つまり 49 年経った後、50 年目はジュビレの年として祝われます。イスラエルの罪は贖われ、ゆるされ、家族は完全に回復し、借金と帳消しにされ、奴隷は解放され、先祖代々の土地は正当な所有者に返還されます。

ジュビレの年は、神の子たちを神の本来の計画の正しい線に戻すための新たな始まりです。すべては神の根源に回復されなければなりません。

私たちは、レビ記 25 章にその詳細を見ることができます。

レビ記 25 章 11 節では、正確な指示を与えています。「五十年目はあなたたちのジュビレの年である。種蒔くことも、休閒中の畑に生じた穀物を収穫することも、手入れせずにおいたぶどう畑の実を集めることもしてはならない。」

その目的は、土地とそこに住む人々に休息を与え、継続的な農業から回復する機会を与えることでした。ジュビレの年には、土地を耕してはならず、自力で育ったものを皆で分け合うことが定められていました。この規定には、神の摂理に信頼し、共同体の幸福を損なうような個人的な富の蓄積をやめるという、ジュビレの基本的な要素があらわれています。

もうひとつの重要な点は、すべての相続地を元の所有者の家族に返還することでした。この掟によって、借金や貧困によって財産を永久に失うことを防ぐことができました。神が土地

の真の所有者であり、イスラエルの民はその絶対的な所有者ではなく、管理者であることを表しました。

ジュビレには、すべての奴隷の解放も含まれていました。経済的困難のために身売りをした人々は釈放され、家族や先祖代々の財産に戻ることができました。これにより、人間の尊厳と自由の価値を強調され、恒久的な下層階級の出現することはありませんでした。

しかし、この年は深い精神的な意味も持っています。この神聖な年の始まりは、雄羊の角笛(シヨファール)を吹き鳴らすことによって示され、それは人々を内省と再生の時へと招集するものです。

聖書の時代には、ジュビレの年は大きな喜びの時でした。ジュビレの年は、神の寛大なあわれみを喜ぶイスラエルの民によって祝われました。そして、これは教会がジュビレを発表するときにも当てはまります。なぜなら、教皇フランシスコが聖年の最初の謁見で強調したように、それは「各自が神から新たに出発するのを可能にすること」だからです。